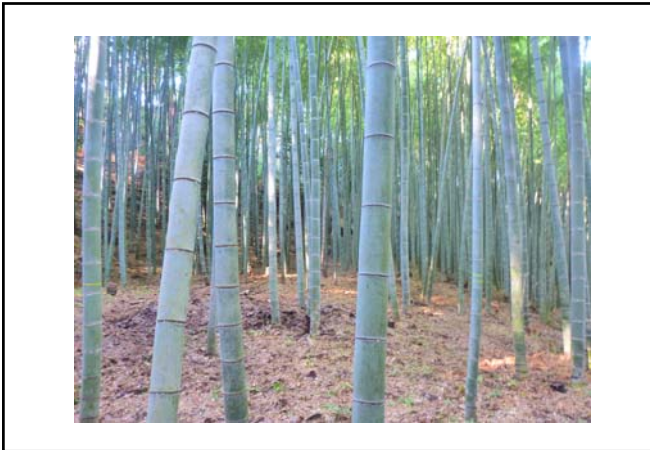




はじめに

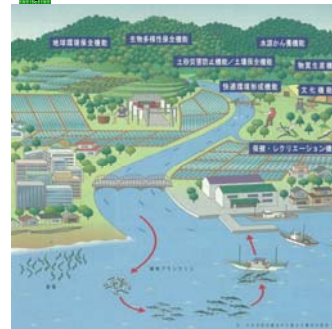
- 森林に対するイメージは？
- 福岡市の森林について知っていることは？
- 森林の持つ機能とは？
- 森林・林業の現状と課題
- 森林は宝の山







森林の持つ多面的機能



- ①生物多様性保全機能
さまざまな生物の種・生態系の保全
- ②地球環境保全機能
地球温暖化の緩和・気候の安定化
- ③土砂災害防止機能/土壌保全機能
土砂・雪・風などによる災害を防止
- ④水源かん養機能
水質涵養・洪水緩和・水質浄化
- ⑤快適環境形成機能
気候の緩和・大気浄化など快適生活環境形成
- ⑥保蔵・レクリエーション機能
保蔵・保樹・行楽・スポーツ
- ⑦文化機能
景観・学習・芸術・伝統文化・地域の多様性維持
- ⑧物質生産機能
木材・食料・原材料の生産

資料：農林水産省作成

福岡市の森林

- 福岡市の森林面積は、市域面積(34,170ha)の約1/3
※民有林の64%が人工林であり、その93%はスギとヒノキ

区分	平成12年度	平成17年度	平成22年度	平成27年度
総数	11,167ha	11,085ha	11,054ha	10,959ha
国有林	2,654	2,597	2,587	2,541
民有林	8,513	8,488	8,467	8,418
人工林	5,397	5,368	5,365	5,371
スギ	2,383	2,353	2,334	2,327
ヒノキ	2,658	2,664	2,670	2,649
その他	356	351	361	395
天然林	2,086	2,031	2,067	2,111
竹	267	253	255	254
無立木地その他	763	836	780	682

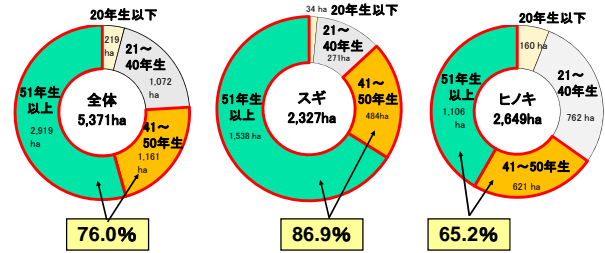


資料：福岡県「福岡地域森林計画書(森林資源構成表)」

15

福岡市の森林

- 人工林樹種別樹齢別面積(平成26年)



本市人工林のうち、利用期(41年生以上)の面積は約7.5割

資料：福岡県「福岡地域森林計画書(森林資源構成表)」

16

福岡市の森林

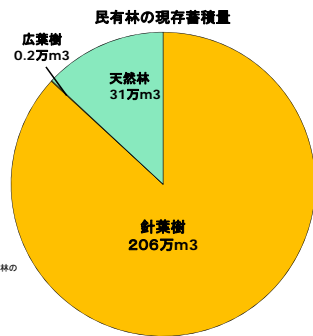
- 民有林の現存蓄積量 237万 m^3

人工林	206万 m^3
針葉樹	0.2万 m^3
広葉樹	31万 m^3
天然林	31万 m^3

資料：福岡県「福岡地域森林計画書(森林資源構成表)」

- 森林の多面的機能の貨幣評価
年間 約310億円

平成13年11月日本学術会議「地球環境・人間生活にかかる農業及び森林の多面的な機能の評価について」及び同関連資料より算定。



17

福岡市の森林

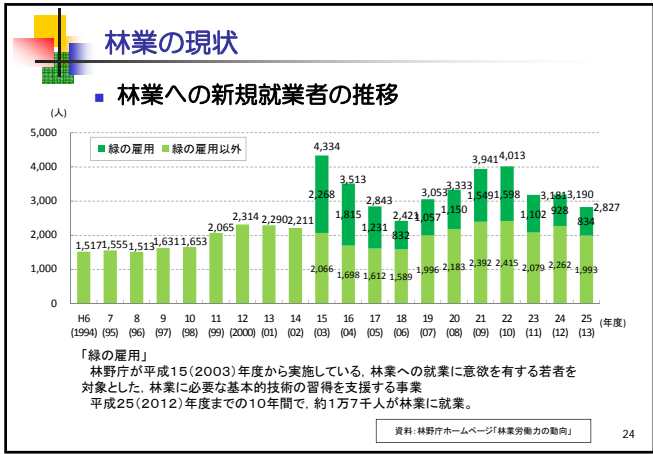
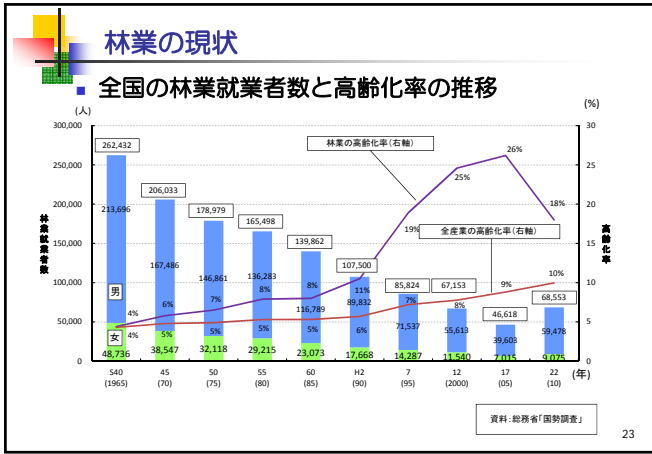
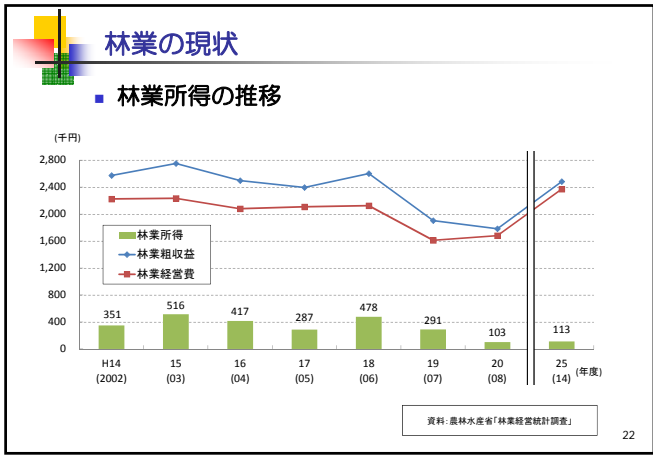
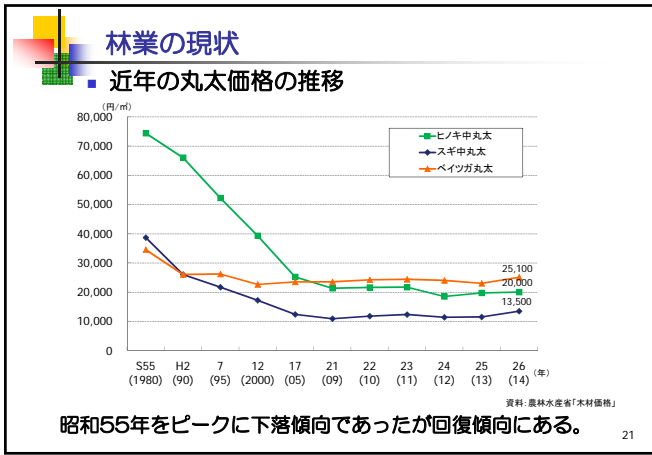
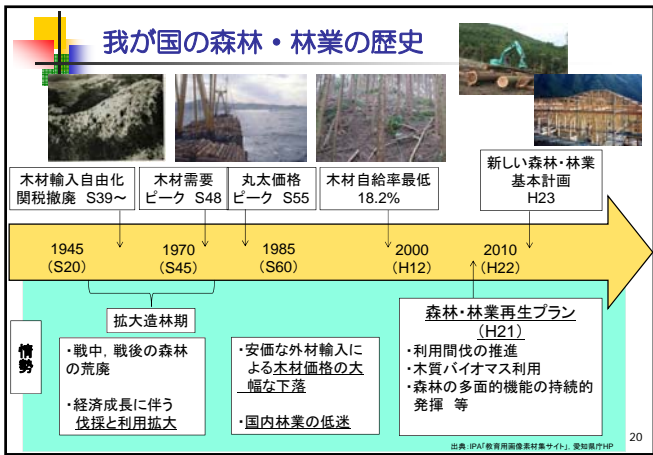
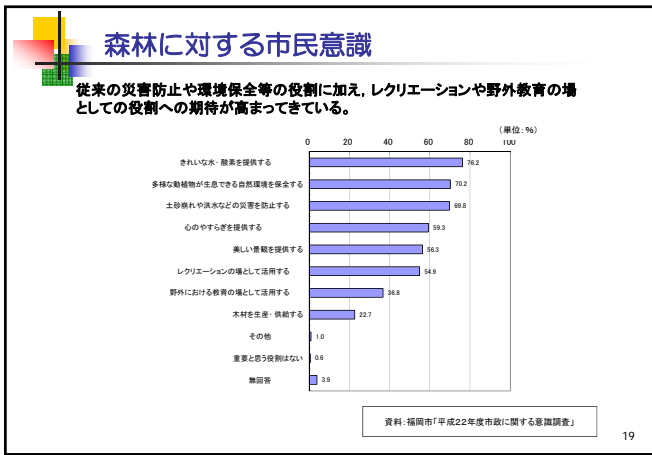
- 規模別山林所有者数(福岡市：平成27年個人分)

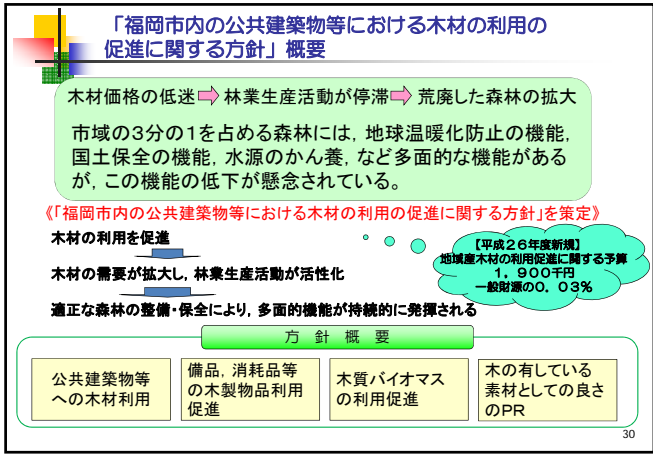
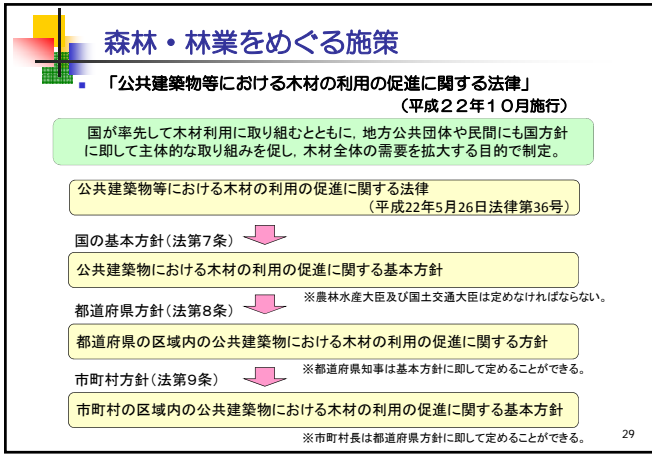
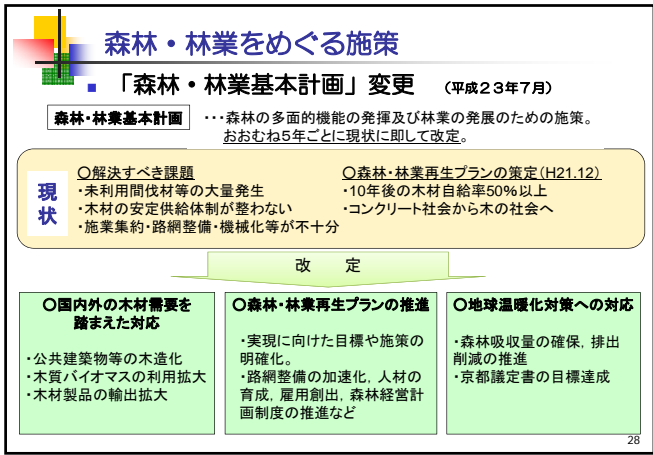
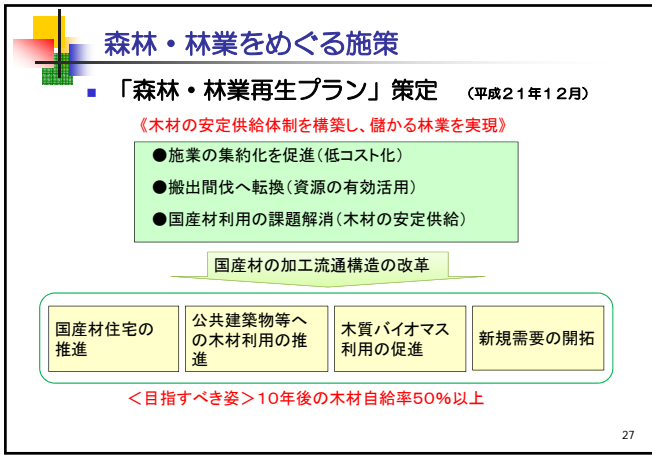
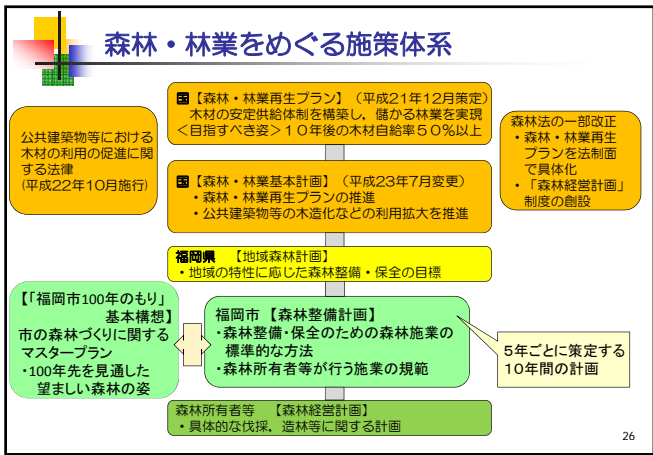
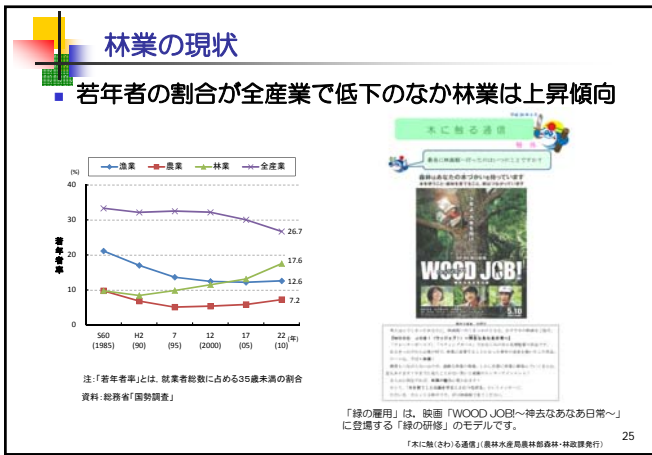
	1ha未満	1ha~5ha未満	5ha~50ha未満	50ha以上	総数
山林所有者(人)	5,441	1,288	147	8	6,879
割合(%)	79.0	18.8	2.1	0.1	100

資料：福岡県「森林簿」

5haの小規模所有者が97.8%

18





1 荒廃森林再生事業

県森林環境税を財源とし、15年以上手入れがされていないスギやヒノキの森林を、平成20～29年度の10年間で健全な森林に再生。

荒廃森林の現状
林業不振により手入れが行われず放置され、荒廃し、公益的機能が低下している。

※調査の結果、荒廃した森林が **市域内に1,993ha**

再生後の森林
間伐等を行うことで荒廃した森林を再生し、水源涵養・土砂災害防止等の公益的機能を回復させる

間伐 除伐

平成25年度の林床整備で復元した松林

2 松くい虫防除による住環境保全対策事業

防風・防砂や景観形成などの重要な公益的機能を有する松林を守るため、栗駒の地上散布など松くい虫被害対策を実施。（海岸線を中心に約140haを対象）

松を枯らす原因となっているのは、体長1mmに満たない「マツノザイセンチュウ」であり、それを媒介するのが「マツノマダラカミキリ」。その被害を防止するための対策を行っている。（写真：松くい虫被害により伐採された松林）

松くい虫被害対策

【1.予防】
◆栗駒の地上散布（松に飛来するカミキリムシを撃滅）
◆罫粉注入（松に侵入した雄虫の増殖を防止）

【2.駆除】
◆伐倒・除根（伐れ松を切り倒し、松内のカミキリムシの幼虫を駆除し、薬剤処理により駆除）

【3.再生】
◆罫粉、松葉かき等（地域住民、NPOとの協働）

※105年度から無人への導入

3 森林によるカーボン・オフセット推進事業

福岡市営林の適正管理により増加した二酸化炭素（CO2）吸収量の一部をクレジット化し、その売却益を森林管理に還元して、地球温暖化防止対策などの環境保全に役立てる。

カーボン・オフセットの仕組み

CO₂吸収 CREDIT CO₂排出
埋め合わせ（オフセット）
資金などの支援

※カーボン・オフセット
企業活動等による温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を、他の場所での排出削減量・吸収量でオフセット（埋め合わせ）するという地球温暖化防止対策の手法の一つ。

4 林道整備事業（森林基幹道整備事業）

森林・林業の振興を図るとともに、森林の持つ多面的機能の高度発揮、森林の多目的利用を促進。

路線名 森林基幹道「早良線」
位置 福岡市早良区曲海～早良区椎原
事業規模 延長：15.2km 幅員：5.0m
建設期間 平成10年～平成30年（21年間）
進捗率 68%（10.3km）

森林基幹道の役割
林道と林道をつなぐ、広域的な森林地域を維持・管理すると共に森林整備に不可欠な林内路網の骨格的役割を果たす林道。また、健全な森林管理による水高涵養と森林レクリエーション機能の発揮のほか、併せて山村地域の振興等を目的とする林道。

5 林道の保全・管理

大雨による林道災害

不法投棄

6 市営林造林保育事業（分収林事業）

「分収林特別措置法」に基づき、森林所有者と市が分収契約を締結して市が造林・保育を実施し、森林が有する多面的機能を確保するとともに、経済性の高い森林を造成する。

- 昭和30年代後半からの高度経済成長以降、林業生産活動が停滞し、無立木地が増加していく状況が生じたため、昭和52年に(財)福岡市森林公社を設立して分収林事業を開始。
(契約面積 1,070ha)
※(参考)ヤブオクトーム 約7ha
- 現在の木材価格では、伐採収益を確保するのが困難。
(昭和55年と比べ約3分の1に下落)

※平成25年度制度見直し
契約期間延長 40年→60年

公共建築物における木材利用の促進等

地域産木材の普及・啓発活動のために、福岡市の方針を策定。(H25.10月)

- 低層の公共建築物等は可能なものは木造化に努める
- 木造化が困難な場合でも内装等の木質化や公共土木工事における資材、備品・消耗品における木材利用並びに木質バイオマスの利用を促進



37

有害鳥獣捕獲許可業務

「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」に基づく有害鳥獣の捕獲許可

- 有害鳥獣の捕獲
鳥獣による生活環境、農林水産業もしくは生態系に係る被害が生じている場合またはそのおそれがある場合に行う。
- 申請できる者
①国及び地方公共団体 ②環境大臣の定める法人
③鳥獣から被害を受けた者又は被害者から捕獲依頼を受けた者
④「はこわな」によるイノシシの捕獲を目的とした農林業者個人
- 捕獲の対象となる鳥獣
イノシシ、カラス、ドバト、イタチなど
- 平成26年度許可件数
獣類：126件
鳥類：96件



イノシシの踏み倒し(水稲)



カラスによる被害(とうもろこし)

38

持続可能な森林づくりのために

目標の設定

森林の持続的経営の基礎づくり

- ・100年先を見通した、持続可能な森林づくりの将来構想策定
- ・良好な森林の形成を図りながら、持続可能な森林づくりへ

森林施策へ反映

森林経営計画の推進

- ・面的なまとまりの下で森林の施策を計画
- ・効率的な整備、木材の安定供給

消費創出

木材利用の仕組みづくり

- 木質バイオマス
未利用間伐材の有効活用が必要
新たな分野における間伐材等の利用の推進
- 地域産木材の利用促進
公共建築工事、公共土木工事での利用を促進
木の良さや地域産木材の利用について、理解促進が必要

課題

市独自の森林に関する情報収集、データ整理と見える化(図化)が必要
(森林資源の状況、荒廃状況、林道整備状況など)

39

林業生産額

(平成24年福岡市民経済計算 平成27年)

- 市内の総生産額 (6兆9千億円)
- 第一次産業の総生産額 (77億円)
- 林業の総生産額 (3億円)

約 0.004%

40